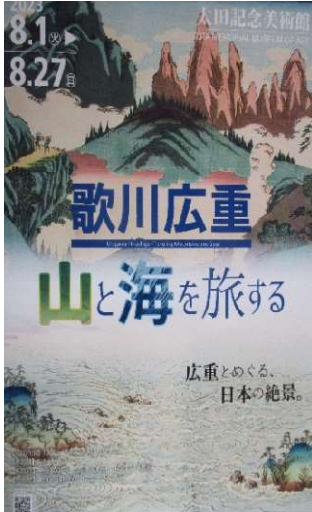


## 歌川広重 山と海を旅する

太田記念美術館（神宮前） 23. 08. 01～27



「歌川広重」(1797～1858)は、役者絵から出発して美人画、風景画、花鳥画などを描き、庶民の人気を得た江戸時代の浮世絵師で、「ゴッホ」や「モネ」などの西洋の画家にも影響を与えたとされる。画伯の代表作に『東海道五十三次』『名所江戸百景』があり、江戸の名所とともに描いたのが、甲州や房総などの旅先で、諸国の山海などの自然を題材にした作品である。

本展は「広重とめぐる日本の絶景」をKWに、晩年に手掛けた揃物全20点の『山海見立相撲』や『六十余州名所図会』を始め、よく知られる名品から展示されることの少ない作品まで幅広く展観ができる。

《山海見立相撲 相模大山》(1858年)は、大山参詣の流行時に良弁僧正が水行を行った滝で、神聖な山の吉祥性や厳かさが強調されたシリーズ作である。

〈本展の見どころ〉

1. 日本の山と海的美を求めた傑作『山海見立相撲』全20図を一挙公開
2. 広重はその絶景を見たか—作品の制作過程を読み解く
3. 大自然に根付いたさまざまな信仰を紹介



1. 「甲陽猿橋之図」
2. 「六十余州名所図会 上野榛名山雪中」
3. 「富士三十六景 駿河薩夕之海上」
4. 「山海見立相撲 相模大山」
5. 「山海見立相撲 讃岐象頭山」
6. 「海道五十三次之内 朝之富士」